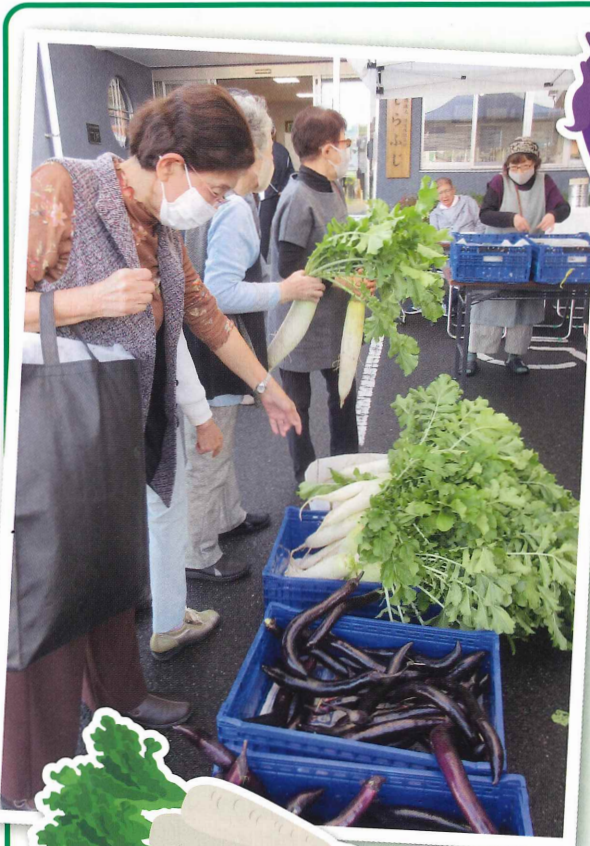


しらふじ

“名物バザー”4年ぶりに開催

おでんにカレー、野菜に日用品がズラリ——「しらふじバザー」が4年ぶりに開催されました。コロナ禍による3年の空白と正味3時間の短時間勝負に、7回目となる“名物バザー”も客足が懸念されましたが、職員によるチラシのポストイン効果もあって千客万来（少しオーバー）の盛況ぶり。利用者と来場者、ボランティアの皆さんとの会話も弾み、来場者は満足し、利用者の多くが「楽しく、やりがいがあった」との感想を寄せる実りのある催しとなりました。今回は、写真を中心にバザーの様子を紹介します。



第95号
令和6年2月29日
発行/更生保護法人
しらふじ
発行責任者/大野美雄
編集責任者/松本英史

新鮮で安く
大好評!

玄関前の野菜コーナーには寄贈された大根とナスビがドーン。両方とも1本が100円の大セールに近くに住む男性は「前から楽しみの催しで、にぎやかでお安い」と大満足の表情。利用者のN・Mさんも「野菜は完売。皆さんと仲良く協力しながら無事に終わってよかった」



一番人気で

売り切れ

品切れを残念がる来場者もいたほどの人気ぶり。筆者も300円のセットを購入し、自宅でいただきました。そのおいしかったこと。ごちそうさまでした。



会話弾み、にぎわい戻る



メイン会場

品定めをする 大勢の来場者

メイン会場の集会室には日用品がズラリと並び、午前10時の「店開き」と同時に人人人。多くが100円から数百円と格安で売られており、一人で何品も求める来場者が目立ちました。利用者のR・Nさんは「小さなお子さん連れのお客も多く、皆さんが笑顔でとてもよかったです」



「H・Nさんは「人と触れ合ったり、いろいろな会話ができてとても楽しく、勉強になった」との感想を寄せていました。」

「よくできている」
製品を前に来場者は

刑務所作業製品コーナー





カレー コーナー

大盛でね

了解!!



玄関前のテントではカレーライスを販売。値段は1皿300円。販売を手伝ったBBSの小池薫穂さん（島根大学一回生）は「利用者の皆さんとたくさん会話ができた。どなたもとてもやさしい」と笑顔。もちろん完売でした。



番外編

何事も下準備が肝心



泥付きの大根を洗う。利用者の皆さん



食堂でおでんの準備に追われる松江更女城西支部の皆さん



- ◆ 浄心寺
- ◆ 長安寺
- ◆ 深貝登志子
- ◆ 井谷耕造
- ◆ 小草建築設計事務所
- ◆ 鹿島地区更女
- ◆ 熊澤好弘
- ◆ 佐々木道子
- ◆ 佐々木滋子
- ◆ 曹洞宗島根県第二宗務所
- ◆ 第三教区
- ◆ 家島佳子
- ◆ 島根地区更女
- ◆ 桐岳寺
- ◆ 内田光代
- ◆ 常福寺
- ◆ 極楽寺
- ◆ 常光寺
- ◆ 龍覚寺
- ◆ 安養寺（坂本町）
- ◆ 平田芳子
- ◆ 城北支部更女
- ◆ 石川正伸
- ◆ 青木薫代
- ◆ 山本壽子
- ◆ 松原正
- ◆ 森脇昌子
- ◆ 稲田宗
- ◆ 宗泉寺
- ◆ 土屋千春
- ◆ 西宗寺
- ◆ 浪花秀明
- ◆ 松江市健康福祉部

バザーにご寄贈いただいた方は次の皆さんです。ご協力ありがとうございました。

（敬称略、順不同）



聞こえてますか

かつこうの音が

題字
袋井市曹洞宗可睡齋前山主
安来市曹洞宗松源寺東堂
佐瀬道淳老師

No. 3

元更生保護法人島根更生保護会主幹

川井 昭一

前号のあらすじ

無期刑を言い渡された受刑者・中里直（仮名）の環境調整を引き受けた川井氏。面会と手紙のやり取りを続



け、中里の母とも電話でのやり取りをする中で、病弱の母と中里の再会は果たせないのではと思ひ、形見になるものを依頼します。中里の生家に向いた川井氏に母親は家族さえも周囲の冷たい目線の辛さを打ち明けます。母から形見として託された白藤と白南天の植木はやがて更生保護会の庭に根付きます。花の下に立つ2人を夢想する川井氏。

雁の隧道

殺人の罪は重かった。許される当てのないしよく罪の日々は続き、中里に仮出獄の朗報がもたらされるまでには、一五年の歳月を要したのである。

知らせを受け彼を迎えに行くことになったが、家族の意向を伝える役目を背負って、仮出獄の喜びを共にすることはできそうもなかった。私は重い気持ちを引きずりながら刑務所の門をくぐった。一時間ほど玄関の事務所で待っていると、仮出獄の手続きを済ませた中里が刑務所の職員に連れられてやって来た。その喜びにあふれた顔が、私の話で暗転することになるだろうと思ひながら、私たち二人は駅に向かって歩いた。駅に着くと、彼は「ちよつと売店まで」と言つて、売店から戻ると買ってきたテレホンカードを示した。そして「おふくろにかけようと思つて」と胸のポケットにしまった。列車に乗ると、母

親との再会、父親の墓参、兄弟たちとの語らい……と、彼の話は尽きそうもない。うなずきながら聞いてはいたが、家族の意向を告げなければならぬ私には、彼の話も右から左へと耳を通り過ぎるばかりだった。と



写真はイメージです(小滝達也氏提供)

りあえず車内販売の弁当を買った。食べながら話そうと思ったからだ。食べ終わるころを見計らって話を切り出した。「言いたいことだが聞いてほしい。一、二日前に弟さんから電話があつて、兄に帰ってもらつては困るし、父親の墓参りもしばらく遠慮するように伝えてほしいということだった。気の毒だが、これが家族の気持ちなのだ。」「やはりそうですか。おふくろの手紙からそれとなく察してはいたのですが……」。今までのじょう舌や笑顔がすっかり消えてしまった。

私は行きの車中で読んだ本の中の詩の一節を思い浮かべた。

前途程遠し
思ひを雁山の暮の雲に馳す

雁山は中国山西省にある高峰で、あまりの高さに北へ向かう雁が飛び越えることができな

保護会に着くと中里を白藤の木の前に連れて行つた。「これはあんたのお母さんに分けてもらった木だよ。『直がこの木を私の身代わりと思つてくれたら嬉しい』と言いなから、私に預けられたんだ。この木にあいさつを済ませたら入ってきなさい」。私は中里をその場に残留して事務室に入つた。

(続く)



写真 アラカト

無料健康診断

消火訓練

法話の集い

講師
諏訪文成師

ハゼ釣り

表彰

(敬称略)

◆法務大臣表彰

野津雅史 (評議員)

◆中国地方更生保護委員会委員長表彰

原 雅人 (評議員)
谷上敏崇 (職員)

◆中国地方

更生保護施設連盟表彰

白石照雄 (評議員)

◆鳥根保護司会連合会長表彰

景山直観 (監事)

◆松江保護観察所表彰

今岡克己 (評議員)
深貝登志子 (理事)

来訪者

(敬称略)

◆食事支援

松江地区更生保護女性会

城北支部 2名

白潟支部 1名

朝日支部 1名

◆コラボージュ作成会

松江地区更生保護女性会

古志原支部 3名

◆山陰中央新報社 白築記者

◆奉仕作業

松江地区更生保護女性会

城西支部 6名



コラボージュ作成会

◆年金のお話

特定社会保険労務士

阪本清

◆松江地区更生保護

女性会研修会 13名

◆松江刑務所教育課

・広報ビデオ撮影 3名

◆食事支援

松江地区更生保護女性会

城北支部 2名

◆法話の集い 洞光寺

諏訪文成

◆大田地区保護司会 武村

◆松江地区更生保護女性会食事支援

本庄支部 1名・持田支部 1名

城北支部 2名

◆コラボージュ作成会

松江地区更生保護女性会

大庭支部 2名・乃木支部 2名

◆奉仕作業

松江地区更生保護女性会城北支部 6名

◆司法修習生研修 6名

◆出雲地区保護司会研修会 8名

◆お月見会

松江地区更生保護女性会 11名

ウクレレ奏者 福岡 滋

◆出雲地区保護司会 尾添

◆コラボージュ作成会

松江地区更生保護女性会

忌部支部 2名

◆食事支援

松江地区更生保護女性会

乃木支部 2名

大庭支部 2名

◆八頭地区保護司会視察 16名



八頭地区保護司会



奉仕作業

◆しらふじ避難・消火訓練

松江市北消防署 4名

・吉谷ポンプ 1名・町内会参加 2名

◆鳥根地区更生保護女性会 3名

西伯地区保護司会研修 18名

◆しらふじバザー

食事支援松江地区更生保護女性会 9名

◆奉仕作業 松江地区更生保護女性会

法吉支部 8名

◆平田地区更生保護

女性会 3名

◆済生会江津総合病院

無料健康診断 6名

◆鳥根あさひ

社会復帰促進センター 職員研修 3名

◆東出雲地区更生保護

女性会 2名

◆法話の集い 龍覚寺

佐藤宗良

◆食事支援

松江地区更生保護

女性会乃木支部 2名

古志原支部 2名

城北支部 2名

◆コラボージュ作成会

松江地区更生保護女性会城西支部 4名

◆宍道地区更生保護女性会 2名

(令和5年7月1日～令和5年12月31日)



平田地区更生保護女性会



出雲地区更生保護女性会

寄付金

(敬称略)

◆日新電工会長 吉野光徳

◆西徳都

◆青木薫代

◆松江地区更生保護女性会城西支部

◆阪本清

松江地区更生保護女性会

野津享平

舟越憲雄

大野美雄

三島洪道

鹿島地区更生保護女性会

大田地区更生保護女性会

大田地区保護司会

出雲地区更生保護女性会

松江湖城ライオンズクラブ

玉湯地区更生保護女性会

加藤澄子

鳥取県西伯地区保護司会

東出雲地区更生保護女性会

宍道地区更生保護女性会

東出雲地区更生保護女性会

常教寺

日蓮宗鳥根県社会教化事業協会

鳥根県更生保護女性連盟

松江地区更生保護女性会城東支部

(令和5年7月1日～令和5年12月31日)

寄付品

(敬称略)

真誠興業/お菓子

浪花秀明/お菓子・パン

高木佳子/食品

吉野光徳/野菜

高木早苗/衣類

LCC株式会社/飲料

川上摩耶/作業着

中村弘恵/衣類

陶山和實/マスク

更生保護施設等支援協議会

(事務局 藤本晴男)/食品



出雲地区保護司会

施設の運営にご協力をお願い

施設や事業の充実のために物品や資金が必要です。そのためご寄贈をお願いし、会員を募集いたします。会員と年会費は下記のとおりです。

しらふじ友の会
会員の募集

- 賛助会員 2,000円以上
- 普通会員 5,000円以上
- 特別会員 10,000円以上
- 法人会員 20,000円以上

入金及び 寄付金振込先
ゆうちょ銀行(口座番号) 01450-1-30366
加入者名 更生保護法人しらふじ

詳しいことは、下記までおたずねください。
更生保護法人しらふじ 松江市奥谷町306-1
TEL 0852-21-5383 FAX 0852-67-5393
メールアドレス: shimanekouseihogokai@sage.ocn.ne.jp
H P アドレス: http://shirafuji-shimane.com

しらふじ 検索 でも検索できます。

- ◆ 福井邦明 / 米
- ◆ 出雲地区保護司会 / 靴・衣類・食品・日用品
- ◆ 出雲中央ロータリークラブ / 靴・衣類・食品・日用品
- ◆ 邑智地区更生保護女性会川本支部 / 米
- ◆ 飯石地区更生保護女性会三刀屋支部 / 米
- ◆ 松江湖城ライオンズクラブ / 日用品・食品
- ◆ 雲南地区保護司会 / 靴下・ズボン
- ◆ 福井茂江 / 野菜
- ◆ 内田光代 / 野菜
- ◆ 竹田克己 / 米
- ◆ 邑智地区更生保護女性会川本支部 / 衣類・日用品・食品



松江湖城ライオンズクラブ

- ◆ 出雲地区更生保護女性会 / 日用品・食品
- ◆ 島根地区更生保護女性会 / 日用品・衣類
- ◆ 平田芳子 / 野菜
- ◆ 邑智地区更生保護女性会 / 米
- ◆ 宗泉寺 / 日用品
- ◆ 公益財団法人清心内海塾 / 自転車5台
- ◆ 松江地区更生保護女性会朝日支部 / 衣類
- ◆ 西宗寺 / 衣類・毛布
- ◆ 平田地区更生保護女性会伊野支部 / 洗剤・日用品
- ◆ 加藤恭浩 / 米
- ◆ 佐々木道子 / 野菜
- ◆ 橋本忠夫 / お茶
- ◆ 金子健雄 / みかん
- ◆ 金築育代 / 小豆
- ◆ 野津真弓 / 衣類



内海塾からの自転車

- ◆ 細田淳子
- ◆ 古藤美紀
- ◆ 坂根勝
- ◆ 安田章夫
- ◆ 佐々木幸美
- ◆ 龍徳寺 村上充峰
- ◆ 野田律子
- ◆ 福岡典子
- ◆ 神庭恭子
- ◆ 坂本光弘
- ◆ (有) 足立塗装 足立守
- ◆ 佐々木道子
- ◆ 内藤昇

- ◆ 米原伸夫
- ◆ 株式会社千茶荘
- ◆ 原田瑞樹
- ◆ 佐野孝山
- ◆ 株式会社 長岡塗装店
- ◆ 古志野功
- ◆ ロイヤルサポート
- ◆ 全龍寺
- ◆ 園山恒子
- ◆ 舟越憲雄
- ◆ 妙雲寺 坂本圭祥
- ◆ 桃原寺 増田美源
- ◆ 松原紀子
- ◆ 平田地区更生保護女性会
- ◆ 石川正伸
- ◆ 佐々木滋子
- ◆ 神光寺 渡部卓史
- ◆ 邑智地区保護司会
- ◆ 福正寺 青木壯文
- ◆ 蓮光寺 浪花秀明
- ◆ 株式会社 庭の川島
- ◆ 観知寺 糸賀太道
- ◆ 青木薫代
- ◆ 安養寺 村上正光
- ◆ 吉長義親
- ◆ 龍雲寺 西尾清文
- ◆ 浄心寺 田中信道
- ◆ 井谷耕造
- ◆ 大野美雄
- ◆ 善慶寺 原昭全
- ◆ 有限会社 高浜印刷
- ◆ 地福寺 大坂恵司
- ◆ 藤島陽子
- ◆ 海士町更生保護女性会

- ◆ 西宗寺
- ◆ 桐岳寺
- ◆ (法人会員)
- ◆ 出雲地区保護司会
- ◆ 合資会社 一文字家
- ◆ 出雲地区更生保護女性会
- ◆ 松江地区保護司会
- ◆ 大社地区更生保護女性会
- ◆ 益田市更生保護女性会
- ◆ 松江地区更生保護女性会
- ◆ 曹洞宗保護司連合会
- ◆ 島根県第二宗務所支部
- ◆ 株式会社 博愛社
- ◆ 太田敦久
- ◆ 曹洞宗島根県第二宗務所 第三教区
- ◆ 洞光寺(松江)
- ◆ 曹洞宗島根第二宗務所 榊MSTC
- ◆ 足立石材

(令和5年7月1日、
令和5年12月31日)

しらふじ友の会

(敬称略)

【賛助会員】

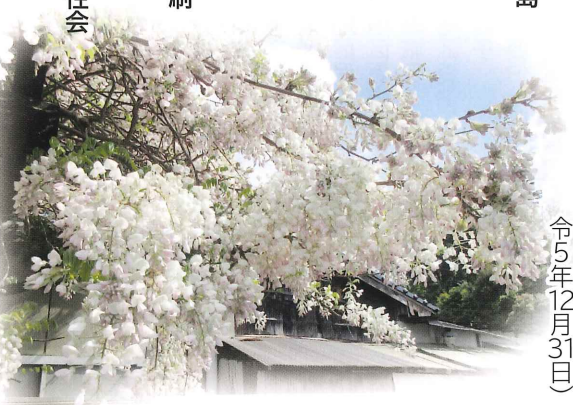
- ◆ 石川咲子
- ◆ 西原倍子
- ◆ 布志原進
- ◆ 藤田教造
- ◆ 大野徹雄
- ◆ 株式会社マサコーポレーション
- ◆ 代表取締役 永原秀治
- ◆ 入江早苗
- ◆ 落合美恵子
- ◆ 廣江友江
- ◆ 田中智津子
- ◆ 後藤勇

【普通会員】

- ◆ 宝林寺
- ◆ 石飛博雄
- ◆ 陶山和實
- ◆ 藤原三葉
- ◆ 近藤佳郎
- ◆ 山崎清晃
- ◆ 金子卓雄
- ◆ 白石照雄
- ◆ 長見寺 藤島義信
- ◆ 熊澤好弘
- ◆ 河野ヒロ子
- ◆ 龍覚寺 佐藤良元
- ◆ 野津イマ子
- ◆ 正福寺 窪田幸正
- ◆ 観音寺 朝山玄一
- ◆ 覚専寺 佐々木知江三

【特別会員】

- ◆ 舟越憲雄
- ◆ 妙雲寺 坂本圭祥
- ◆ 桃原寺 増田美源
- ◆ 松原紀子
- ◆ 平田地区更生保護女性会
- ◆ 石川正伸
- ◆ 佐々木滋子
- ◆ 神光寺 渡部卓史
- ◆ 邑智地区保護司会
- ◆ 福正寺 青木壯文
- ◆ 蓮光寺 浪花秀明
- ◆ 株式会社 庭の川島
- ◆ 観知寺 糸賀太道
- ◆ 青木薫代
- ◆ 安養寺 村上正光
- ◆ 吉長義親
- ◆ 龍雲寺 西尾清文
- ◆ 浄心寺 田中信道
- ◆ 井谷耕造
- ◆ 大野美雄
- ◆ 善慶寺 原昭全
- ◆ 有限会社 高浜印刷
- ◆ 地福寺 大坂恵司
- ◆ 藤島陽子
- ◆ 海士町更生保護女性会



4年ぶりに お月見会楽しむ

9月18日にボランティアの女性グループと入所者で4年ぶりに「お月見会」を開きました。

ボランティアの女性グループ、松江地区更生保護女性会から14人が参加していただきました。女性会のメンバーがススキと花を飾り、白玉だんごとぜんざいを作ってもらい、お月見のムード満点に。利用者11人とおにぎりと唐揚げを一緒にいただきました。

女性会のメンバーにはコロナ禍で活動できなかったため、初めてボランティアに参加する人も。女性会のメンバーによるキーボードと、応援に来ていただいた福岡滋さんのウクレレの演

奏で合唱。利

用者の中には

歌いながら涙

ぐむ人もいて、

いろいろな思

いを抱えて、

頑張っている

人を応援しよ

うとの温かい

雰囲気におま

れました。

女性会の深貝

登志子さんは

「利用者の皆さんの楽しそうな顔を見

ていたら、お月見会を開くことができ

て良かったと思いました。お礼の手紙

もいただき励みになりました」と話し

ていました。



温かい雰囲気のお月見会

「七夕飾り」が登場。 願い事かなうといいね。

季節の行事を利用者に楽しんでもらうと、「七夕飾り」がお目見えしました。ボランティアの松江地区更生保

護女性会の有志が提案。利

用者の方に七

夕の短冊を配

り「願い事」を

書いてもらい

ました。願い事には「真面目になる事」

「家族を大切にする」などの決意や、

「お金が貯まるように」や「健康でい

る事」などの願いが書かれています。

その願いを、七夕飾りの笹に取り

り付け、利用者玄関に8月6日から

15日間飾り、利用者の心と目を癒し

ました。

また、有志の方から利用者へ、「お

やつ袋」もいただきました。季節の

行事を楽しみ、家庭的な雰囲気を感じ

られるのがしらすの良きです。

白南天

正常化バイアスという言葉がありま
す。心理学の世界で使われる用語で、
異常事態が起きて自分は大丈夫、
まだ正常の範囲内と平静を保とうと
する働きで、心が疲れすぎないため
に必要な心のメカニズムだそうです。
大災害が起きると、人はすぐにパニッ
クを起すと考えられています。最近の
研究では逆に、正常化バイアスが働
いて動かずに固まってしまうとされ
ます。

私にとつて、元日の午後4時6分、
石川県を襲った能登半島地震の場合
がまさに、それでした。テレビが震度
7の地震発生と津波襲来を叫び続け、
近くの公園にある防災スピーカーが
津波用のサイレンを鳴り響かせるな
か、小さな横揺れを感じました。し
かし、まず思ったのは「年末の疲れで
眩暈がしたのかな」。鏡台や電灯の横
揺れで、やつと能登半島地震と横揺
れが結び付いたのです。ほんの二カ月
ほど前には、地区で地震を想定した
避難訓練をしたばかりなのに…。

おとそ気分は、つつ飛び、テレビ各局
は正月特番を取りやめて能登半島に
押し寄せる津波や輪島の火災、気象
庁の会見の様子などを次々と報じてい
ます。ふっと、目の前の机に置いた年
賀状の中の一枚が気になり読み返して
みました。それは、互いに駆け出し記
者のころ赴任先の鳥取で親しくなった

「君からのもので、このように書かれ
ていました。「6道県11市町の被災現
場で得た災害ボランティア経験を体験
的に整理しよう」と：防災士試験にチャ
レンジし合格、災害救援ボランティア・
セーフティリーダー（SL）資格を
習得し、防災から被災まで、自分な
りの道をつなぐことができた」と。さ
らに今住む千葉県船橋市でも地元の
自治会などから頼まれて減災の取り組
みや、子どもを見守る親の思いに寄り
添う「ファミリー防災フェア」を開催
しているというのです。嗚呼、恥ずか
しや恥ずかしや。

「君は長く神戸市に住み、199
5（平成7）年1月17日早朝に起き
た阪神淡路大震災に遭遇、被災者の
立場で災害現場を取材するという過
酷な体験をしています。初動での自
助、共助の大切さを身をもって知った
ことで、迷うことなく第二の人生を
選び、歩んでいるのでしょう。」

地区であった避難訓練の後の研修
で、行政から、いかに共助が大切か
を学びました。自助がかなわない人た
ちを周りの人たちが支え合うのが共
助。なのですが、普段からの声掛けで
情報を知っておくのも共助。大げさに
考えずに「ちよっとしたお節介」を焼
くことが、万が一の場合に役立つこと
を知らされました。

「ちよっとしたお節介」なら私にも
気負いなくできそうですが、これはい
くら親しくても「君には言えませんよ
ね。嗚呼、恥ずかしや恥ずかしや。」



玄関にお目見えした
「七夕飾り」

